

耳栓チェッカー

VERDE EAR PLUG CHECKER

ベルデ・イヤール・プラグ・チェッカー

製品仕様

コード:40-34-8100-00 標準価格 240,000円

測定周波数	1000、2000、4000、連続 [Hz] (選択方式) ※1
測定音	断続的な純音 (2Hz)
測定方法	電源をONすると、表示器に操作手順が表示されます。 表示手順に基づき操作することにより、測定できます。
判定方法	耳栓を装着しない時と耳栓装着時の測定データの差を遮音量とします。
騒音モニター	測定場所の測定周波数に応じた騒音レベルを表示します。 緑色ランプ・・・40dB未満 ※2 赤色ランプ・・・40dB以上 ※2
電源	AC100V 50/60Hz
大きさ(寸法)	46.1cm(幅)×33.4cm(高)×16.1cm(奥行)
重量	約6.5kg

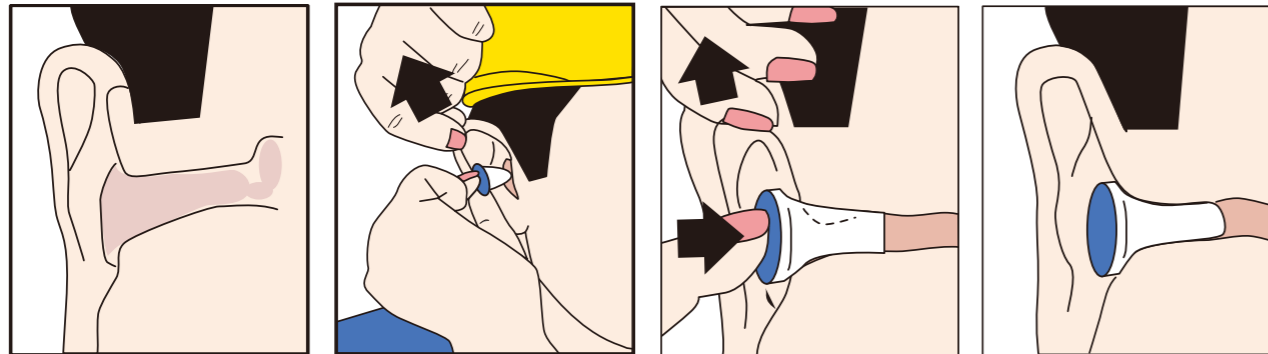
※1) 『連続』とは、測定周波数が自動で1,000Hz⇒2,000Hz⇒4,000Hzと変化します。

測定周波数を切り替えるわずらわしさがありません。

※2) 数値レベルは、目安です。

耳栓の挿入方法

耳栓にはいろいろの形をしたものがありますが、これを外耳道(耳の穴)に挿入する方法は次のようになります。



①外耳道は一般に上図の様に曲がっております。

②耳栓を挿入する場合には、例えば右耳に挿入する時は、右手で耳栓の端を持ち、左手を頭上から回して、耳たぶの上部をつまみます。

③左手でつまんだ耳たぶを軽く上へ引き上げる。外耳道がまっすぐになりますので、耳栓をねじ込む様に挿入します。

④耳栓がきちんと挿入された状態。

防音保護具の種類

防音保護具の種類は、JISにより規定され耳栓と耳覆い(イヤーマフ)に分けられ性能についても表の通りに定められています。

JIS T8161の規格

種類	記号	周波数 (Hz)							摘要
		125	250	500	1000	2000	4000	8000	
耳栓	EP-1	10以上	15以上	15以上	20以上	25以上	25以上	20以上	低音から高音まで遮音するもの
	EP-2	10未満	10未満	10未満	※20未満	20以上	25以上	20以上	主として高音を遮断するもので会話程度を比較的通すもの
イヤーマフ	EM	5以上	10以上	20以上	25以上	30以上	35以上	20以上	

※EP-2の中心周波数1000Hzにおける遮音値は、15dB未満にすることが望ましい。

音の減少(dB)・遮音値とは

音の伝搬を妨げる性能で、たとえばデシダンプ耳栓の4000Hzの周波数では42.3dBの遮音性能があります。職場での4000Hzの周波数100dBの騒音を57.7dBまで下げることが意味します。



- 作業環境によって騒音レベルは異なります。又、各人の耳の形、大きさも異なります。適切な保護具をお選びください。
- 耳に障害のある方はご使用前に医師にご相談ください。
- 遮音により事故を起こす恐れのある作業、行動(自動車の運転など)には使用しないでください。
- 耳栓を正しく装着しないと遮断効果が得られない場合があります。



適切な耳栓の選択

正しい耳栓の装着

しゃ音効果の測定

騒音による聴力障害を防止するため
耳栓チェッカーによる測定・活用をお薦めいたします。

騒音作業現場における防音対策をとる中で管理者または作業員個人が簡単に測定しチェックすることが可能です。

働く人の安全・健康・環境を守りたい。

M 株式会社
ミドリ安全株式会社
本社/東京都渋谷区広尾 5-4-3 〒150-8455
電話/03(3442)8294

- 印刷の関係で、実際の商品と色が多少異なって見える場合があります。
- 掲載商品の仕様および価格、外観は予告なく変更する場合があります。
- カタログ掲載内容は、2010年3月現在のものです。

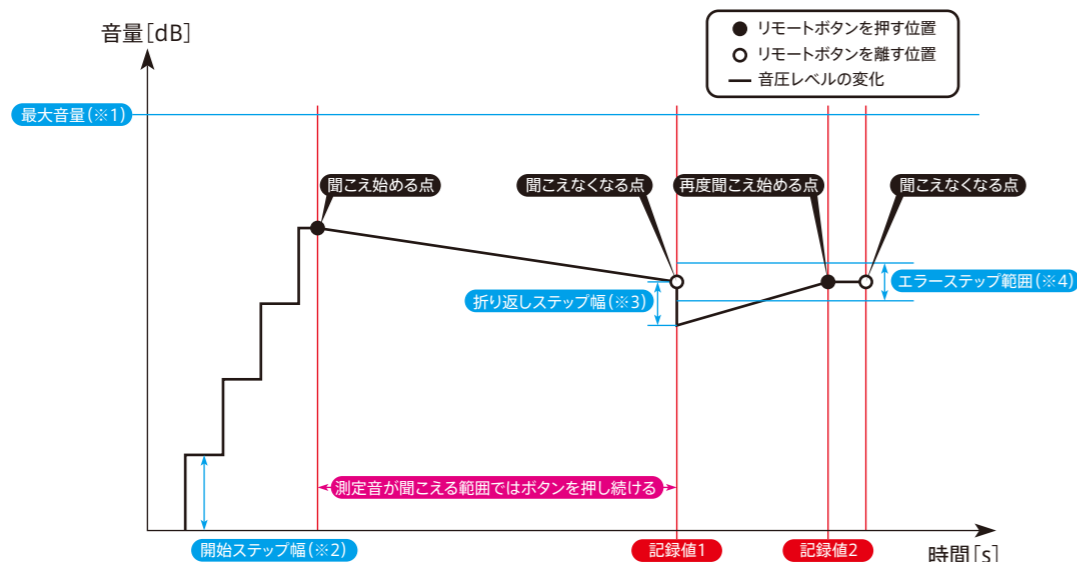
耳栓の遮音効果を測ったことがありますか？

耳栓の遮音効果を簡単にチェックできます。

騒音による聴力障害を防止するため、耳栓の着用が有効であることはいうまでもありません。しかし、耳栓が正しく装着されて、はじめて、その効果を十分に発揮します。そのため、耳栓の遮音効果を調べるのが重要です。

本製品は、作業現場における作業者の耳栓装着効果を測定することにより、耳栓の適正な選択・使用に役立てるとともに、騒音性難聴防止教育の一環として利用していただくことができます。

メカニズム



- (※1) 最大音量 : 音圧レベルの最大値。
- (※2) 開始ステップ幅 : 聞こえ始める音圧レベルを検索するための上昇レベル幅。
- (※3) 折返しステップ幅 : 再度聞こえ始めるの点を検索するために、聞こえなくなった点から、音圧レベルを下げる幅。
- (※4) エラーステップ範囲 : 聞こえなくなる音圧レベルと再度聞こえ始めるの音圧レベルの差を、規制するための範囲。

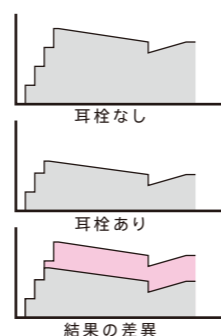
- (1) 「耳栓なし」または「耳栓あり」キーが押されると、音圧レベルは、設定した開始ステップ幅で上昇し、リモートボタンが押される点を検索します。
- (2) リモートボタン(【決定】キー)が押され続けると、音圧レベルは1dBずつ下降します。
- (3) リモートボタンが離されると、その時点の音圧レベル値を記録します。
- (4) 音圧レベルは、上記(3)で記録した値から設定された折返しステップ幅を減じた音圧レベル値より1dBずつ上昇します。
- (5) 再び、リモートボタンが押されると、その時点の音圧レベル値を記録します。
- (6) その後、音圧は停止し、リモートボタンが離されたことを確認します。
- (7) 上記(3)、(6)からの記録値をもとに、遮音量を算出します。

遮音値の測定は次の順序で行われます。

耳栓なし (1) 耳栓を装着しない状態で左右両耳の聴力レベルを測定する。
右耳聴力レベルの測定 ⇒ 左耳聴力レベルの測定 (自動で切り替わる)

耳栓あり (2) 耳栓を装着した状態で左右両耳の聴力レベルを測定する。
右耳聴力レベルの測定 ⇒ 左耳聴力レベルの測定 (自動で切り替わる)

(3) 耳栓遮音効果値として、各耳における(1)と(2)の差を自動的に計算し、表示器にデジタル表示する。



各部名称



操作手順

- (1) 電源コード・ヘッドホンジャック及び【リモートボタン】を接続する。
- (2) POWERを『ON』。
- (3) **耳栓を装着せず**に、ヘッドホン装着する。
- (4) 操作キーの【耳栓なし】キーを押す。
- (5) 以後、音が聞こえている間【リモートボタン】を押し続ける。
音が聞こえなくなったら【リモートボタン】を離す。
再び音が聞こえたら【リモートボタン】をもう一度押す。
- (6) 表示器の画面に『耳栓なしの測定が終わりました。』とメッセージの表示。
(これで、これまでの測定が終了。)
- (7) 続いて、**耳栓を装着し**、再びヘッドホン装着する。
- (8) 操作キーの【耳栓あり】キーを押す。
- (9) 以後、上記5と同じ操作をする。
- (10) 表示器の画面に『耳栓ありの測定が終わりました。』とメッセージの表示。
- (11) 表示器の画面に測定結果が表示。
- (12) 操作キーの【データクリア】キーを押し、次の人に渡す。